管内の百名山「男体山」

男体山は、栃木県北西部、日光連山の西側にそびえる栃木県を代表する山で、標高は2,486㍍あります。

成層火山らしい、ゆるやかな裾野を広げる円錐状の山体は、関東一円から望まれ、古くから山岳信仰の対象として知られています。

山頂には日光二荒山神社の奥宮があり、眼下に中禅寺湖、遠く富士山を眺めることができます。

中禅寺湖と男体山

日光国立公園の景勝地は、男体山の噴火によるものが多く、湯川がせき止められてできた湖が中禅寺湖、その流出口が華厳の滝となっています。また、堆積地として戦場ヶ原や小田代ヶ原が形成され、戦場ヶ原には、日光の神（男体山）と赤城の神（赤城山）がそれぞれ大蛇と大百足に化けて、戦ったという伝説が伝わっています。

いろは坂を登り切った明智平展望台から男体山の東南斜面を仰ぎ見ると、山腹に深く浸食された谷（薙）が目に入ります。

この浸食谷は、崩れやすい地質に加えて、降水量も多いことからできたもので、過去の台風による豪雨により、下流部の住居や国道等に土砂を流出させる災害を引き起こしました。

西の湖から望む男体山

男体山の治山事業は、災害を防ぎ、多くの人々の暮らしを守るため、昭和35年から民有林を対象として国有林が実施する直轄治山事業として開始されました。

事業開始から半世紀を経過した現在は、緑化が進んだため、明智平からの展望においても、赤茶けた浸食谷が目立たなくなってきています。当初のカラマツ植栽箇所は間伐を行うまで成長しました。

明智平から治山事業地を遠望

男体山の裾野に広がる奥日光は、国内有数の景勝地。春から初夏には、ツツジやズミの花、盛夏には避暑、秋には紅葉を求め、年間を通じ全国から多くの観光客が訪れます。

日光森林管理署は、この豊かな森林を保護するとともに、快適に利用していただくため、森林整備、保護対策等を地元の自治体やボラティア団体などと連携して、積極的に行っていくこととしています。

（日光森林管理署広報広聴連絡官）